



## 日本大学通信教育部校友会

### 兵庫県支部 (令和三年三月号)



日本大学通信教育部兵庫県支部のみなさんコロナ禍の今如何がお暮しでしょうか、お見舞い申し上げます。令和元年にコロナウイルスが世界中で蔓延・総なめました。

話はがらりと変わって、天正十年六月二日には麒麟がきましたか？明智光秀が反逆を爆発させ、面白かったです。その原因で色々な説があります。

一、人物の介在説①光秀と家康、②信長と蘭丸、③光秀と利三、④光秀と秀吉。二、信長を恨む。三、天下を狙う野望。四、切迫事態に追い込まれた。五、光秀を利用した周辺の人々①朝廷、②仏教界。六、明智光秀の生存説。

こんなに色々な説に魅せられる麒麟さん・・・コロナ後社会でみんなで語り合ひましょう。逢える日を楽しみにしています。

日本大学通信教育部兵庫支部長 前田 忠義

### ポーランドを訪ねて 和田 信子

2019年7月15日に関空を出発、ミュンヘンへ、乗り継いでクラクフへ、夜のポーランドに到着。

翌日、「アウシュビッツ」見学。当時のユダヤの人たちの遺品、靴、持ち物等が諸に、ガラスケースの中に積まれていた。私は今まで、映画や報道でしか目にした事がなかったので大変衝撃を受け、戦争の不条理さを感じた。次に同じく戦跡の「ビルケナウ」の収容所へ。ここは田園の中に平屋の建物が在ってその静かさに驚いた。どちらもレールが

敷かれていたのが印象に残った。

4ケ目に「シヨパン」ゆかりの地ワルシャワに行き、シヨパンの生

家等々を観光。別れの曲”は

初めて出会ったクラツシツ

クなので、興味があった。ヴ

イラヌク宮殿のウジエンキ

公園の入り口に、怪獣のモニ

ュメントがあり20分間隔

で火炎を吹いていた。貸し切

りトラムで市内観光。夜は、

クラツシツコンサート、お

年を召した有名な「ピアニスト(男)が弾くグランドピアノの奥行き

長さがめずらしかった。CDを購入して演奏者が一人一人に手渡し、

写真を撮っていた。

今、思い出した事で「アドルフ、ヒットラー」は“ベジタリアン”

だったそうだが、ある人曰く、欧米人は、肉食が多いので残虐行為

が多い、と。では「A・ヒットラー」とジェのサイトはどう結びつく

にか？と

ポーランドの国旗は、白と赤の2本の横線で解り易い。また、食事

もなんとなく、日本人に合うようなものが多い。カモ料理、ロールキャ

ベツ、ポーランド餃子等。ドイツ、チェコ、ソヴェト(ロシア)、バル

ト海に面して略奪、破壊の繰り返して哀しい国の印象があったけれど、

現在は、社会主義国で、素材で美しい、清々しいところだと思った。

日本は、水道からいつでも良水が出て来る。亦、陸続きの国がない

から地上戦のようなことは無いようだし平和に住して行けそうに思う。

感謝しながら生きなければと思う。

コペルニクス、キュリー夫人、シヨパン、等天才肌の有名人もでて



いる、ある意味心豊かな国かもしれない。一見何も無いところだけでも馴染めそうな国だった。

## コロナ禍に思う 阪神支部 岸本 卓也

本当のものが わからないと 本当でないものを 本当にする。

食品添加物、農薬、放射能、電磁波、遺伝子組替食品、病気になる率、奇形や障害児、日本は世界で最悪の状態であり、医療も福祉もともに機能していない。現実を直視すれば、絶望しかみえてこない。

新型コロナ騒動で多くの日本人は、政府発表とメディア報道に恐怖をおおられ、やみくもにコロナ感染者やマスクをしない人間をパッシングした。それでコロナウイルス騒動はどうなのかと考えてみると、あらゆる数字が嘘であり詐欺でしかない。データは米国のジョンスボプスキン大学という御用大学の捏造に由来する。歴史をかえりみれば、スペイン風邪のウイルスはアメリカ軍絡みから発生し大流行を呼び起こし、ワクチンうい作つても効かず、アスピリンに代表される西洋治療で免疫をいじってサイトカインストームを巻き起こし、ウイルスの変異と拡大と著しい死亡者を産み出したのは事実である。日本の死者は約四十万人以上と言われている。

今後日本で警戒しなければならぬのは、地震、恐慌、戦争である。歴史上いつでも三点セットでやってきた。国や大組織はそもそも信用できないし、国家は国民を守らないものだ。

我々にできることは、マスクはしない。うがいもしない。水洗い。風呂は毎日。厚着はしない。腹八分。発酵食品と味噌をよく食べる。無農薬のお茶を飲む。散歩と山歩きを再開しました。太陽の下で緑に囲まれ自然に接する事で、与えられた命を百パーセント使って生き切るこ

とが今必要でしょう。

## 平家物語と仏教 塩見 俊郎

三年前にいなみ野学園を終えるときに「平家物語と仏教」のレポートを提出した。他の学生のレポートも兵庫県生きがい創造センターが、生涯教育のホームページに登録している。忘れかけた時に、高砂市の松陽学園から講演の依頼が来た。関連の書籍は終活で整理したところだった。図書館から「平家物語必携」などの本を借りてきて、もう一度思い出しながら仕上げた。パワーポイントのスライドを四十ページに作り直して。令和三年一月十五日に講堂で講義する。

年末からもコロナ感染者が終息せずに非常事態宣言下での実施となった。定員三百人のところを半分制限して予定通りに十時から九十分の講義をはじめた。

演題を平家物語と仏教としたので、仏教の初歩的な内容も盛り込んだ。「諸行無常」とは何か。祇園精舎はどこにあったか、平安時代に建立した平等院と藤原道長の往生の作法などをチラッと説明した。それから平家の繁栄から清盛のあつち死までの講義を進めたところで時間切れとなった。その後に、維盛の補陀落浄土への船出、重衡の木津川での斬首、そして、建礼門院と後白河上皇の再会と六道語りは時間切れとなった。講義のあとに所長と談話したときは、次回の時は3回くらいに分割して、内容に仏教抜きでお願いします。と感想を聞いた。

日本文学の代表的戦記の平家物語から「仏教」的要素を無くしてしまふことは、日本の文学でなくなるのでは。そもそも日本人と仏教は切っても切れない仲ではないか。仏教の濃い薄い、上座部仏教と大乘仏教の違いはあるが、仏教は日本人の心の中にこそ生きていくはず。

日本の宗派の葬式仏教は、釈迦の教えを必ずしも伝えてはいない傾向はあるが。まあそんなことに目くじらをたてても致し方がないところではある。自分の余生の研究対象の一つに加えていけば、それで良

しとするほかはあるまい。  
そう思いつつ次年度の講義依頼の連絡を待っている桜の咲くころである。

梅見の吟行 塩見 俊郎

コロナ禍で悶々の歌仲間を連れ立って高砂の曾根神社へ吟行に出かけた。曾根神社の他に、石の宝殿、小赤壁へも足を運んだ。

天気予報が雨だったのでそれぞれ雨具を持って曾根神社へ集合する。が雨は降っていない。3年前に梅まつり協賛の短歌大会の時に境内の

満開の梅を思い出す。1週間前の新聞で見ごろと載っていたが、今日も満開の枝垂れ桜が見事に咲き誇っている。次は万葉の頃には麓まで海が迫っていたという日笠山へ登る。道真が大宰府に左遷の途次に立ち寄り「罪なくば栄えよ」と植えた松の木は霊枝となつて保存されている。眼下には大塩の塩田後の景色が広がる。大規模の太陽光パネルが設置されている。万葉人が見ればどのような和歌を作るか、と想像してみた。

「印南野は行き過ぎぬらし天伝ふ日笠の浦に波立てり見ゆ」（巻七 178）。次は石の宝殿へ向かう。『播磨風土記』にも既にこれらの建造物の記事がある。奈良の酒船石と同じ目的で作られ、途中で不要となり捨て置かれたものか。多くの説が考えられているが確定には至っていない。この石をご神体にしたのが、生石神社。

その麓に、私が講義した高砂市の生涯学習センターが立地している。ランチを済ませて、的形と八家の間に位置する小赤壁へ行く。幸い雨は降らずに参加の7人は古代人も眺めたであろう、播磨の海の景色を堪能する。江戸時代に来訪した頼山陽が、中国の赤壁に因んで小赤壁



と命名した。小赤壁公園からの海は素晴らしいが、海岸べりの岩場を見るのには海から見るのがいいが、丘の上からは見えない。今回は、下からの散策道を探すことにする。最後に法華山谷川の堤に建つ、歌碑を訪ねた。「深き夜に目覚めて聞けば播磨瀧伊保の湊に千鳥なくなる」

作者の大江嘉言は平安中期の一条天皇に仕えた公卿。但馬守のあと対馬守となり、下向する時に立ち寄った時の歌かも・・・。当時から須磨明石などが歌枕として、読み込まれた歌は多くあるが、現地での歌は数が少ないので貴重であろう。

（編集後記）

緊急事態宣言で少なくなりつつあったコロナ感染者が、解除になった矢先から新種の登場で大阪兵庫は、以前にもまして増加の傾向である。

近くに住む息子の家族と姫路城の天守閣へ登りました。急な階段に小学生もふうふうといきながら上がっていききました。桜は満開でした。  
日本大学通信教育部兵庫県支部 役員一同

